
開講科目名：租税法研究Ⅲ（A）（2単位）
開設年次：1年 2年
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻
担当者：宮崎 清幸

《授業の概要》

【授業の目的】

租税法の基本的な考え方を理解し、税制が変わっても実務で使えるよう構造を把握する。租税法における基本的アプローチを確認することにより、修士論文作成のための基礎力を養成する。

【授業全体の概要】

講義、リーガル・ライティング、討議から構成される。講義、討議は、租税法の理論等を理解するため重要判例を取り上げる。

受講に当たっては、事前に筋した参考文献や裁判例を読み、疑問点などを整理しておく。復習に当たっては、判例評釈等を確認し理解を深める。なお、随時、レポートの提出を求める。

【授業の進行】

1. 導入
2. 租税とはなにか
3. 租税法とはなにか
4. 租税法の基本原則
5. 税法の解釈
6. 実質課税
7. 理由付記
8. リーガル・ライティングとは
9. 重要判例を用いた討議
10. リーガルライティングの実践
11. 重要判例を用いた討議
12. リーガル・ライティングの実践
13. 重要判例を用いた討議
14. リーガル・ライティング
15. 前期のまとめ

【評価方法】

レポート（50％）および授業への取り組み（50％）で評価する。

《テキスト》

特に指定しない。必要に応じて参考資料を配布する。

《参考書》

中里実ほか編「租税法概説（第3版）」（2018年、有斐閣）
中里実ほか編「租税判例百選（第6版）」（2016年、有斐閣）
金子宏ほか編「ケースブック租税法（第5版）」（2017年、弘文堂）